

第七章「ここから（仮）」（化城諭品第七）04

著作権等は仏教学こころの研究所に帰属します。無断での複写・転用・引用などを禁じます。

出版前の原稿ですので、取り扱いには十分お気をつけください。皆様のご協力、ご理解のほど、宜しくお願い致します。

頁	読み下し文（平楽寺本）	偈	研究所 訳
164-8	時に諸の梵天王、頭面に仏を礼し繞ること百千帀して、即ち天華を以て仏の上に散ず。所散の華須弥山の如し。竝に以て仏の菩提樹に供養す。華の供養已って、各宮殿を以て彼の仏に奉上して、是の言を作さく、唯我等を哀愍し饒益せられて、諸献の宮殿願わくは納処を垂れたまえ。爾の時に諸の梵天王、即ち仏前に於て一心に声を同じうして、偈を以て頌して曰さく、		認めるや、その尊い人・仏の居られるところへと、大梵天たちは近づいていった。近づいてゆき、尊い人・仏の両足に頭をつけて挨拶をし、そのまわりを右めぐりに数多たびし、須弥山ほどの量の花冠を、その尊い人・仏の上に、また前にまき散らした、十由旬もの、かの菩提樹の上にもまき散らしたのであった。花冠をまき散らし、そして、梵天の空飛ぶ宮殿をさし出すのであった。『お受け取りください、尊い人・仏よ、お使いください、梵天の空飛ぶ宮殿を、わたしたちをお慈しみくださるのなら。成就者・仏よ、お受け取りください、梵天の空飛ぶ宮殿を、わたしたちをお慈しみくださるのなら』さて、比丘たちよ、大梵天たちは、それぞれの空飛ぶ宮殿を、その尊い人・仏にさし出し、そして尊い人・仏に向かい、美しい詩を詩って、尊い人・仏を称えるのであった。
165-2	世尊は甚だ見たてまつり難し 諸の煩悩を破したまえる者なり 百三十劫を過ぎて 今乃ち一たび見たてまつることを得	39	きわめて得難いのだ／指導者・仏たちに見えることは／生存に対する貪りを破壊せしめる／あなたが まさに／訪ねて来られたことは// いま 世に／久しい刻を経て／あなたに見える／幾百劫が満了した後／あなたに見える(39)

165-3	諸の飢渴の衆生に 法雨を以て 充滿したもう 昔より未だ曾て 観ざる所の 無量の智慧者なり 優曇波羅の如くにして 今日乃ち 値遇したてまつる	40	世の主・仏よ／渴望した生きとし生けるもの (praja-) を満たす／未だ見えぬ あなたに／やっとのことで／見え たのである// あたかも 滅多に咲かぬ／優曇華の花のように／やっとのことで／あなたに見えたのである／指導者・仏よ (40)
163-5	我等が諸の宮殿 光を蒙るが故 に嚴飾せり	41	指導者・仏よ／わたしたちの／これらの空飛ぶ宮殿は／あなたの威神力によって／今 美しく飾られており ます//
163-6	世尊大慈悲をもって 唯願わくは 納受を垂れたまえ		周囲の一切が見える眼を持つ者よ／わたしたちを／深くおぼし召されて／これらを お受け取りになって／お使 いください(41)
165-8	爾の時に諸の梵天王、偈をもっ て仏を讃め已って、各是の言を 作さく、唯願わくは世尊、法輪を 転じて、一切世間の諸天・魔・ 梵・沙門・婆羅門をして皆安穩な ることを獲、而も度脱することを 得せしめたまえと。時に諸の梵 天王、一心に声を同じゅうして、 偈を以て頌して曰さく、		そのとき、比丘たちよ、彼ら、大梵天たちは、その尊い人、大神通智勝如来・勝れた人・正しくあますところなくさとな る人・仏を目の当たりにし、このような美しい詩によって称賛してから、その尊い人・仏に申すのであった。『転じて ください、尊い人・仏よ、教えの輪を。世に転じてください、成就者・仏よ、教えの輪を。示してください、尊い人・仏 よ、静謐の境地を。お済ください、尊い人・仏よ、生きとし生けるものたちを。歓ばせてください、尊い人・仏よ、人 びとを。説き示してください、教えの主である尊い人・仏よ、その教えを、この世のために。神もいる、梵天もいる、魔 もいる、出家者も婆羅門もいる、神がみや人びと、阿修羅もいる、この生きとし生けるものたちのために。それは、多 くの人びとのためになり、幸せをもたらすことでありましょう。世の中を憂えられ、群れ居る神がみや人間たちの役 に立ち、ためになり、幸せをもたらすことになるでありましょう。』そして、比丘たちよ、五百万コーティ・ナユタもの梵 天たちが、声を揃えて唱和し、その尊い人・仏に向かい次のような二つの美しい詩を詩って語りかけるのであった。
165-12	唯願わくは天人尊 無上の法輪 を転じ 大法の鼓を撃ち 大法 の螺を吹き	42	尊い指導者・仏よ／あなたは 法を／示すでしょう／あなたは この教えの輪を／転じて下さい// そして／この法の太鼓を／打ち鳴らしてください／その法の法螺貝を／吹き鳴らしてください(42)

166-1	普く大法の雨を雨らして 無量の衆生を度したまえ 我等咸く帰請したてまつる 当に深遠の音を演べたもうべし	43	正しい法の雨を／世に 降らせるでしょう／そして／善い言葉を 響く声で／あなたは語るでしょう// 請われた教えを／あなたは／鳴り響かせるでしょう／コーティ・ナユタもの衆生を／解き放つでしょう(43)
166-3	爾の時に大通智勝如来、黙然として之を許したもう。		そのとき、比丘たちよ、その尊い人・仏は、彼ら大梵天たちに対し、黙して応ずるのであった。
166-3	西南方乃至下方も亦復是の如し。		同じく南西の方角において、同じく西の方角において、同じく北西の方角において、同じく北の方角において、同じく北東の方角において、同じく下の方角において、そのように繰り返した。
166-4	爾の時に上方五百万億の国土の諸の大梵王、		さて、比丘たちよ、上の方角において、五百万コーティ・ナユタもの世界にある、梵天の空飛ぶ宮殿が一際輝き、照り映え、明るく、気高く、威光を放っているのであった。
166-4	皆悉く自ら所止の宮殿の光明威曜して、		
166-5	昔より未だあらざる所なるを覩て、歡喜踊躍し希有の心を生じて、		そこで、比丘たちよ、大梵天たちは思うのであった。＜梵天たちの乗り物・宮殿が一際輝き、照り映え、明るく、気高く、威光を放っている。これは何の前兆なのであろうか＞と。
166-6	即ち各相詣って共に此の事を議す。何の因縁を以て、我等が宮殿斯の光明ある。而も彼の衆の中に一りの大梵天王あり、名を尸棄という。諸の梵衆の為に偈を説いて言わく、		そして、比丘たちよ、それら、五百万コーティ・ナユタもの世界における、大梵天たる者たちは、たがいの住まいを訪れ、語りあうのであった。さて、そのとき、比丘たちよ、尸棄という名の大梵天が、梵天たちの大集団に、美しい詩を詩って語りかけるのであった。

166-9	今何の因縁を以て 我等が諸の 宮殿 威徳の光明曜き 厳飾せ ること未曾有なる	44	友よ／これはどういう理由か／わたしたち それぞれの／空飛ぶ宮殿が／顕になった// 威光によって／彩りによって／輝きによって／ことさら 顕になった／ここに どういう理由があるのか(44)
		45	このようなことは なかった／誰も／見たことも／聞いたことも／かつて なかった// 今や／空飛ぶ宮殿が／威光によって／燦き 輝いています／ここに どういう理由があるのか(45)
166-10	是の如きの妙相は 昔より未だ 聞き見ざる所なり 大徳の天の 生ぜるとやせん 仏の世間に出 でたまえるとやせん	46	あるいは／まさしく ある神子が／浄らかな行いによって／ここに／現れたのだろうか// もしくは／仏陀が／世に出現されたのであろうか／このようなことが起きているのは／かの威神力であらうか (46)
166-12	爾の時に五百万億の諸の梵天 王、宮殿と俱に、各衣・を以て諸 の天華を盛って、共に下方に詣 いて是の相を推尋するに、大通 智勝如来の道場菩提樹下に処 し師子座に坐して、諸天・龍王・ 乾闥婆・緊那羅・摩・羅伽・人非 人等の恭敬圍繞せるを見、及び 十六王子の仏に転法輪を請ずる を見る。		さて、比丘たちよ、そうした五百万コーティ・ナユタもの世界には、大梵天と呼ばれる者たちがおり、彼らの悉くが打ち揃い、神ごうしいそれぞれの梵天の空飛ぶ宮殿に乗り込み、須弥山ほどの量の天の花冠を携え、東へ西へ南へ北へと巡りながら、探りながら、下の方角へと進んでいった。そして、見たのだ、比丘たちよ、かの大梵天たちは、下の方角に、尊い人・大神通智勝如来・勝れた人・正しくあますところなくさとった人・仏を。最上のさとり座におられる、菩提樹の下に獅子の座に坐っておられる、神や龍、夜叉、乾闥婆、阿修羅、迦樓羅、緊那羅、摩睺羅伽など、人や人以外のものたちと十六人の息子である王子たちにより、囲まれ、敬まわれて、教えを説いてくださるよう請われている、その人を。

167-3	時に諸の梵天王、頭面に仏を礼し 繞ること百千帀して、即ち天華を 以て仏の上に散ず。所散の華須 弥山の如し。并に以て仏の菩提 樹に供養す。華の供養已って、各 宮殿を以て彼の仏に奉上して、 是の言を作さく、唯我等を哀愍 し饒益せられて、所献の宮殿願 わくは納処を垂れたまえ。時に 諸の梵天王、即ち仏前に於て一 心に声を同じうして、偈を以て頌 して曰さく、		認めるや、その尊い人・仏の居られるところへと、大梵天たちは近づいていった。近づいてゆき、尊い人・仏の両足 に頭をつけて挨拶をし、そのまわりを右めぐりに数多たびし、須弥山ほどの量の花冠を、その尊い人・仏の上に、ま た前にまき散らした、十由旬もの、かの菩提樹の上にもまき散らしたのであった。花冠をまき散らし、そして、梵天 の空飛ぶ宮殿をさし出すのであった。『お受け取りください、尊い人・仏よ、お使いください、梵天の空飛ぶ宮殿を、 わたしたちをお慈しみくださるのなら。成就者・仏よ、お受け取りください、梵天の空飛ぶ宮殿を、わたしたちをお慈 しみくださるのなら』さて、比丘たちよ、大梵天たちは、それぞれの空飛ぶ宮殿を、その尊い人・仏にさし出し、そし て尊い人・仏に向かい、美しい詩を詩って、尊い人・仏を称えるのであった。
167-9	善哉諸仏 救世の聖尊を見たて まつるに 能く三界の獄より 諸 の衆生を勉出したもう	47	善いかな／仏陀／世の主／庇護者たちを／見ることは// まさしく／仏陀たちは／三界にいる／衆生を／解脱させる(47)
167-10	普智天人尊 群萌類を哀愍し 能く甘露の門を開いて 広く一切 を度したもう	48	周囲の一切が見える／眼を持つ／世の王たちは／十方を／よく見渡し// 不死の門を／開いて／多くの／人びとを／入らせしむ(48)
167-11	昔の無量劫に於て 空しく過ぎて 仏いますことなし 世尊未だ出 でたまわざりし時は 十方常に闇 暝にして	49	思量も／及ばぬ劫が／これまでに過ぎた／その間／あなたは不在でした// 勝利者である／王たちに／会うことがない／十方は／闇だった(49)

167-12	三悪道増長し 阿修羅亦盛んなり 諸天衆轉た減じ 死して多く 惡道に墮つ	50	おそろしい／地獄の数々／畜生／同じく阿修羅も／増大し// また／幾千・コーティの／生類が／餓鬼の中に／生まれ落ちる(50)
			また／天の身体は棄てられ／死に変わり／生まれ変わりしては／悪しき境界に赴く//
168-1	仏に従いたてまつりて法を聞かずして 常に不善の事を行じ 色力及び智慧 斯れ等皆減少す	51	仏陀たちの法を／聞くことが／ないので／この者たちには／悪しき境界しかない(51)
			あらゆる／生けるものたち(prāṇin-)から／行の淨らかさや／道を知る智慧は／棄てられる//
168-3	罪業の因縁の故に 樂及び樂の想を失い 邪見の法に住して 善の儀則を識らず	52	彼らには／安樂は／悉く失われ／安樂という認識も／消滅する(52)
168-4	仏の所化を蒙らずして 常に惡道に墮つ 仏は世間の眼と為って 久遠に時に乃し出でたまえり	53	また／彼らは／不品行になり／誤った法に／拠り// 世の主によって／制御されないので／彼らは／悪しき境界に／堕ちている(53) 世の光明よ／長い時を経て／やって来られた／あなたに／見えたのである//
168-5	諸の衆生を哀愍したもう 故に世間に現じ 超出して正覺を成じたまえり 我等甚だ欣慶す	54	あなたは／現われた／すべての／衆生を／慈しむが故に(54) 幸いにも／安穩に／あなたは／この上ない仏陀の智慧を／獲得された// あなたに対して／私たちは／喜びでいっぱいです／まさしく神々を含む／世と共に(55)
168-6	及び余の一切の衆も 喜んで未曾有なりと歎ず 我等が諸の宮殿 光を蒙るが故に嚴飾せり	56	力ある者・仏よ／私たちの／空飛ぶ宮殿は／あなたの威神力によって／輝いている//
158-8	今以て世尊に奉る 唯哀みを垂れて納受したまえ		偉大なる勇者・仏よ／あなたに差し上げます／大慧眼・仏よ／納められよ(56)

	願わくは此の功德を以て 普く一切に及ぼし		
168-9	我等と衆生と 皆共に仏道を成ぜん	57	指導者・仏よ／私たちを／慈しむために／どうか／お使いください// 私たちも／そして／すべての衆生も／最勝のさとりに／触れたいものです(57)
168-11	爾の時に五百万億の諸の梵天王、偈をもって仏を讃め已って、各仏に白して言さく、唯願わくは世尊、法輪を転じたまえ。安穩ならしむる所多く、度脱したもう所多からん。時に諸の梵天王、而も偈を説いて言さく、		さて、比丘たちよ、かの大梵天たちは、かの尊い人 大神通智勝如来・勝れた人・正しく余すところなくさとした人に向かい、このような美しい詩によって称賛してから、その尊い人・仏に申すのであった。『転じてください、尊い人・仏よ、教えの輪を。世に転じてください、成就者・仏よ、教えの輪を。示してください、尊い人・仏よ、静謐の境地を。お済いください、尊い人・仏よ、生きとし生けるものたちを。飲ばせてください、尊い人・仏よ、人びとを。説き示してください、教えの主である尊い人・仏よ、その教えを、この世のために。梵天もいる、魔もいる、出家者も婆羅門もいる、神がみや人びと、阿修羅もいる、この生きとし生けるものたちのために。それは、多くの人びとのためになり、幸せをもたらすことでありましょう。世の中を憂えられ、群れ居る神がみや人間たちの役に立ち、ためになり、幸せをもたらすことになるでありましょう。』そして、比丘たちよ、五百万コーティ・ナユタもの梵天たちが、声を揃えて唱和し、その尊い人・仏に向かい次のような二つの美しい詩を詩って語りかけるのであった。
169-2	世尊法輪を転じ 甘露の法鼓を撃って 苦悩の衆生を度し 涅槃の道を開示したまえ	58	あなたは／最上の輪を／転じるでしょう／不死なるものの太鼓を／うち鳴らすでしょう// そして 幾百もの苦から／解脱させるでしょう／そして 衆生に対して／涅槃への道を／示すでしょう(58)
169-3	唯願わくは我が請を受けて 大微妙の音を以て 哀愍して 無量劫に習える法を敷演したまえ	59	私たちに請われて／あなたは教えを説くでしょう／私たちを／そして この世間を／喜ばせるでしょう// そして／幾千コーティ劫を経て／完成された／美しく響く声で／解き放ってください(59)